

## 「印刷業界の団体としての責任」

## 第四回世界印刷会議

鈴木和夫

一九八九年五月七日 於リオデジャネイロ

日本印刷産業連合会は、従来あった日本印刷工業会を中心に、わが国印刷関連産業十団体の結末の下に一九八五年六月に設立されて以来、この四年間着実に活動を続けてきました。

すなわち産業の高度化、情報化への対応をはじめ、印刷産業のイメージアップのための普及啓蒙事業や国際交流の推進、さらには環境保全、安全衛生の向上など新しい時代へ向けてレールを敷いてまいりました。これからは、日本の印刷産業がさらに



第四回WPCリオデジャネイロ大会。日本からは八十名という大勢の参加を得ることができて、面目を施し開催国ブラジルから、大変に感謝された

大きく変化する時代に対応するための体質づくりに努め、業界のより一層の地位の向上と発展に向けて、できる限りの努力をいたす所存であります。

日本の印刷産業の地位の向上と発展は、換言すれば、通産省の諮問機関、産業構造審議会の紙・印刷部会から、印刷業界の協力の下に昨年四月に答申された「二〇〇〇年の印刷産業ビジョン」を着実に具現化していくことであり、ビジョンが期待している情報産業、生活産業、文化産業に成長するよう、諸施策を強力に進めていくことであります。

ビジョンで示された二〇〇〇年における日本印刷市場の需要予測十五兆円（千二百億ドル）については、今後わが国のGNPの伸び率を五パーセント、それに対する印刷需要の弾性値を一・三と設定し、年率平均六・五パーセントずつ伸長していくことを前提に組み立てられています。その伸び率を達成するには、一九八八年から二〇〇〇年までの十二年間の内、後半の七年間は従来型の印刷需要の伸びの鈍化が予測されるので、その分を印刷に関連するソフトサービスの新規分野でカバーしていかないと十五兆円産業にはならないとされています。

GNPの五パーセント成長については、われわれ印刷産業だけの努力ではいかんともなりません。弾性値一・三を超える部分を確保していくのはわれわれの努力次第であり、責任でもあると考えています。

先ほど述べたソフトサービスの分野というものが、今後は伸びの鈍化が予測される従来品種の外側に、別の品種として並列して存在するものと考え、基本である従来分野での力を抜いて、ハイテクやニューメディアなど先端のみを目指すようなことがあるとするならば、それは大きな間違いです。

印刷の役割というものが、今ではもう表面加工業（サーフェイスクンバーター）のみにとどまらず、顧客の商品そのものや情報の処理加工にまで参画する、仕事の質的転換期にあるのだという理解をわれわれはまずしなければなりません。

例えば、出版の仕事においては、CTSで入力され、蓄積されたデータの編集内容や形式を、印刷会社が自分のコンピューターによって加工することにまで関与し、一方、宣伝印刷の分野でも、印刷会社のトータルスキヤナーによって、デザインワークが行われるようになっていきます。

そこには、われわれの持つ高度な技術の提供があり、特にソフトウェアの面での貢献は大きいものと思います。

そのうえ、パッケージングの分野では、その構造や素材設計はもちろんのこと、充填や物流のシステム、さらには顧客の商品のマーチャンダイジングにまで参画しています。言い換えれば、印刷会社は顧客と一緒に新しい需要や市場を開拓する時代になってきているということです。

これこそまさに私の持論であるソフトサービスの三次産業的

手法を持つ二次産業、すなわち「二・五次産業」なのです。印刷産業が変化の時代を乗り切るためには、このスタンスに立つことが大切だと私は考えています。

今回のビジョンづくりのように、国のレベルで民間の協力の下、印刷業界の現状と将来展望についての総合的な分析や調査、特に業態がこれだけ広がり、情報加工と生活関連産業として発展しつつある印刷産業を分析し、将来に向けての提言を行った例は、諸外国にもないのではないのでしょうか。

その意味では、このレポートが国際的にも何がしかの参考にしていただける点があると思います。いままで基礎技術をヨーロッパから、マスプロ技術をアメリカから学んだ日本の印刷産業が、発展途上の国々に対して、これから進むべき方向についてのアドバイザーとして、国際的責任の一端を果たせるようになることを私は密かに期待しています。

JFPI（日本印刷産業連合会）の構成メンバー一万七千八百四十社は、その取り扱い品種や企業規模によって、当面の目標や利害が必ずしも完全に一致しているとは限りません。

しかし、一層の高度化と情報化を図り、もって産業の発展および生活文化の向上に寄与するというJFPI設立の目的においては、お互いに同じ認識を持つているわけです。とりわけ、次の世代を担う人材の育成、教育の問題については、規模の大

小を問わず共通している大切なテーマです。

J F P I は今ここにそのりーダーシップを発揮しながら、二〇〇〇年のビジョンという大きな灯をかかげ、その目標に向けて全会員の力を結集し、具体的な問題としては税制や著作権問題など、一企業や一団体では実現不可能なシステムや法制度づくり、特に行政対応の面に全力を注いでいます。

今、世の中の価値観は「効用」や「効率」から、「美しさ」や「創造」の追求という人間の心、「感性」に訴える方向へと動いています。

人間の感性に訴えるという技術こそ、印刷業というものが、グーテンベルク以来五百年の間培ってきた基本技術であり、「文化に根ざした情報・生活産業」と私が申し上げているところの基本的な理念なのです。

そのような見地から、まさに今の時代こそ印刷産業の出番であり、その認識に基づく責任と大きな夢を持って、私は二十一世紀へ向けて胸を張って前進していきたいと考えています。

今日ここにお集まりの皆様にとつては、国という環境に違いこそあつても、大きな変化が予測される二十一世紀をまもなく迎えるという次元においては、全く同じ立場にあるといえましよう。

その立場に立つて、今回の会議のテーマの下に一堂に会し、お互いに活発に意見を交換し、勉強し合うことは、誠に意義あ

ることと考えます。

皆様がこの会議を通じて深い友情と多くの収穫を得られ、ここに参加してほんとうに良かったと、いつまでもすべての人の心に残るような有意義な会議になることを希望して、私のご挨拶といたします。

世界印刷会議 (W P C) Word Print Congress。世界の主要印刷産業団体が共同主催し、印刷業が直面する課題の解明、二十一世紀の市場や技術、印刷経営のあるべき姿などを議題に、四年ごとに開催。二〇〇五年一月には南アフリカ共和国で開催された。